

九州・山口県の火山活動 (令和7年3月1日～4月22日)

令和7年4月22日
福岡管区気象台
地域火山監視・警報センター

今回のポイント

- ・霧島山(新燃岳) 3/30 噴火警戒レベル3(4km※)に引き上げ
4/2 噴火警戒レベル3(3km※)に切替
 - ・口永良部島 4/16 噴火警戒レベル2に引き上げ
- ※警戒範囲

霧島山(新燃岳)

噴火警戒レベル3(入山規制)

(警戒範囲3km)

新燃岳火口から概ね3kmの範囲で警戒(大きな噴石:火口から概ね3kmまで、火砕流:火口から概ね2kmまで)。

- ・3月28日頃から火山性地震の増加が見られる中、3月30日に山体の膨張を示す変動。
- ・2024年11月頃から新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな変化(GNSS連続観測)。

口永良部島

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

新岳火口及び古岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴い飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒。西側は新岳火口から概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒。

- ・主に古岳火口付近の浅部を震源とする火山性地震が増加し、4月16日までの10日間で100回発生。

噴火警報及び噴火予報の発表状況 (令和7年4月22日現在)

火山名 は噴火警戒レベル運用火山

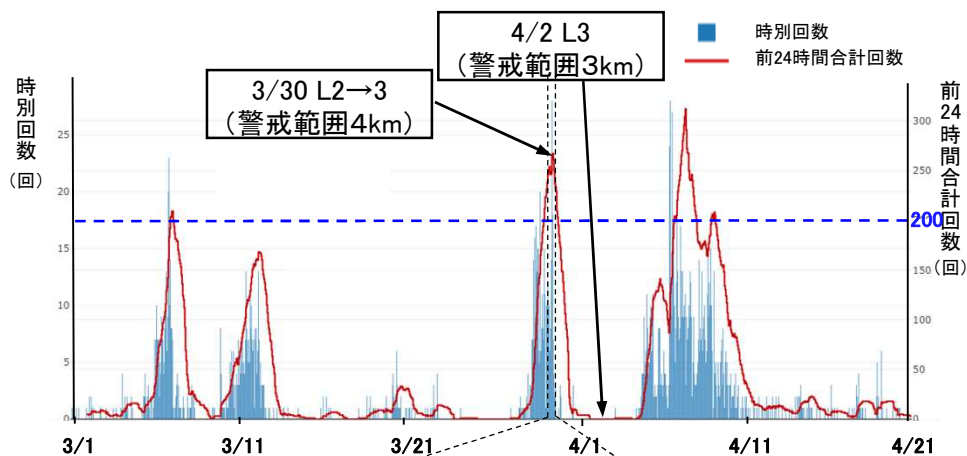
▲噴火警報発表中の火山

▲噴火予報発表中の火山(レベル運用火山)

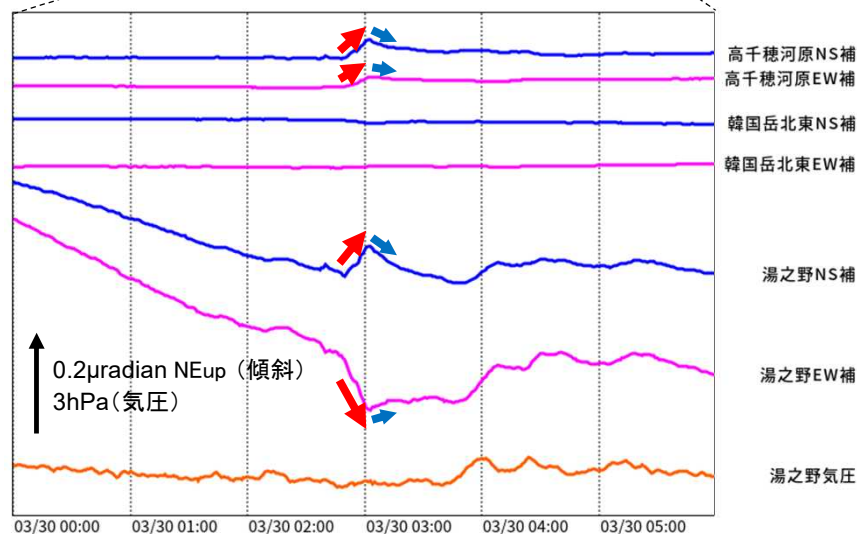
△噴火予報発表中の火山(レベル対象外火山)



霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル3(入山規制)



火山性地震の特別回数及び前24時間合計回数
(2025年3月1日～4月20日)



傾斜計による地殻変動の状況
(2025年3月30日00時00分～06時00分、分値)

各観測点の成分名に付記された「補」の文字は、そのデータが潮汐補正済みであることを示す。

3/30 : 噴火警戒レベル2→3(警戒範囲4km)

4/2 : 噴火警戒レベル3
(警戒範囲4km→3km)

新燃岳火口から3km以内に影響を及ぼす噴火の可能性あり

- 3月28日頃から地震回数が増加し、30日には前24時間の回数が200回を超えた。また、30日02時56分には、継続時間が10分間程度の火山性微動が発生した。
- 上記の火山性地震の増加とともに、新燃岳近傍に設置している傾斜計で、3月30日02時50分頃から山体の膨張及び収縮を示す変動がみられた。その後特段の変化はみられていない。
- 新燃岳火口では、3月30日08時頃から白色噴煙の量が一時的に増加し、同10時頃には噴煙の高さが火口縁上200mに達した。

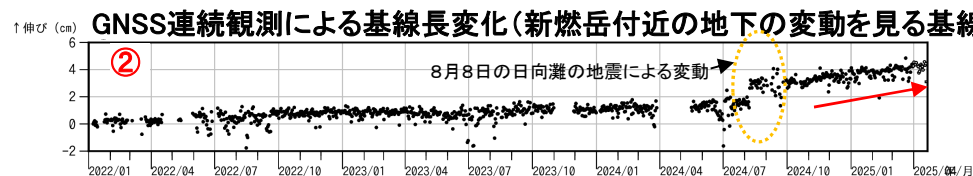
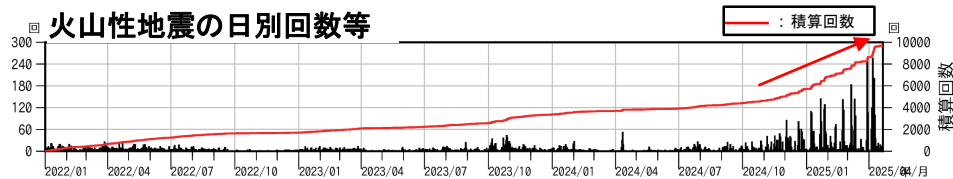


霧島山
(新燃岳)



噴煙の状況(2025年3月30日10時06分頃)

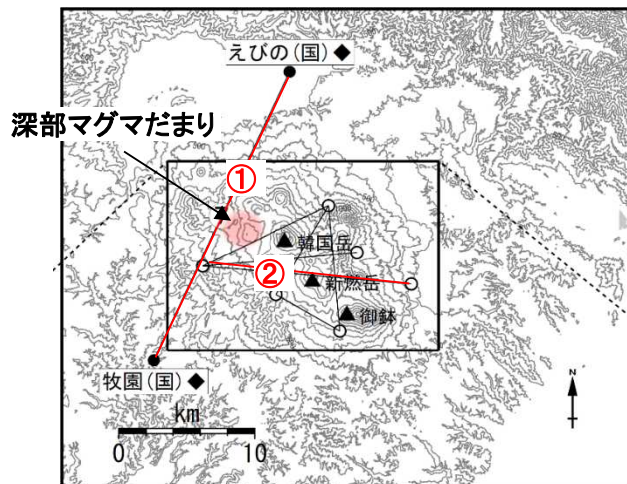
霧島山(新燃岳) 噴火警戒レベル3(入山規制)



- 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返しながら発生し、多い状態で経過(赤矢印)。
- GNSS連続観測では、霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられる基線のわずかな伸びが2024年11月頃から認められる(赤矢印)。
- 4月8日に実施した現地調査では、新燃岳西側斜面の割れ目付近の地熱域の分布に特段の変化は認められなかった。また、火山ガス(二酸化硫黄)は検出されなかった。

霧島山
(新燃岳)

火山活動経過図(2022年1月1日～2025年4月20日)



GNSS連続観測点と基線

GNSS連続観測(上図)の基線を赤線で示す。



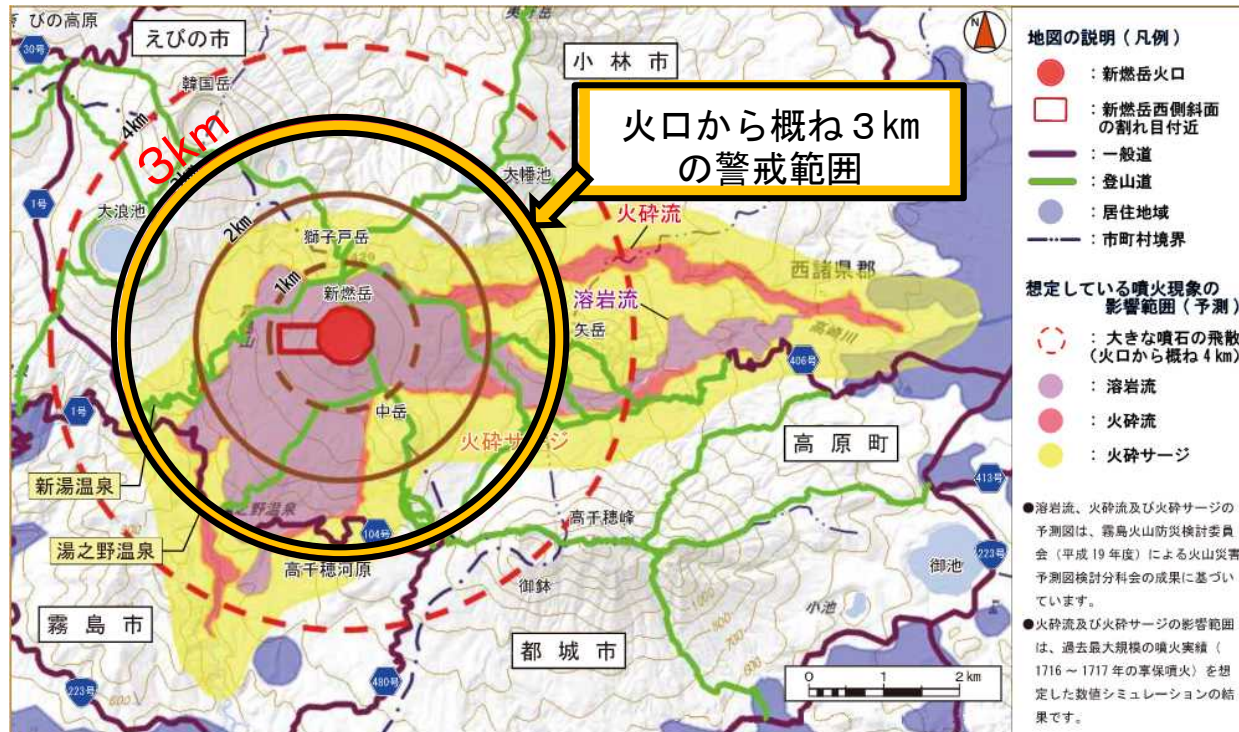
4月8日の現地調査(熱観測)の様子

霧島山(新燃岳) 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項等

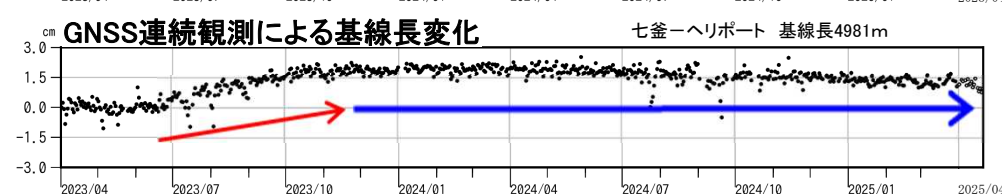
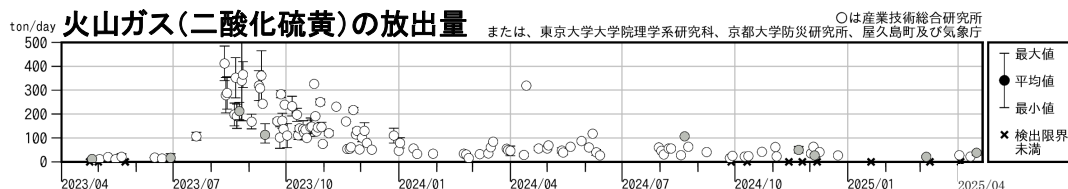
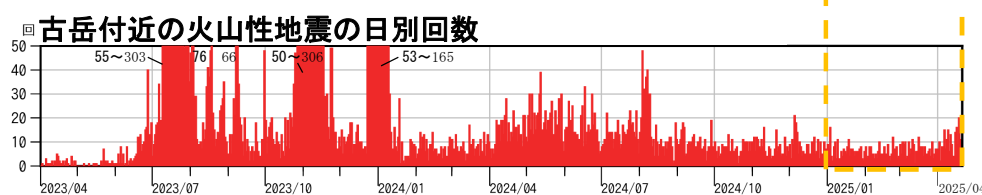
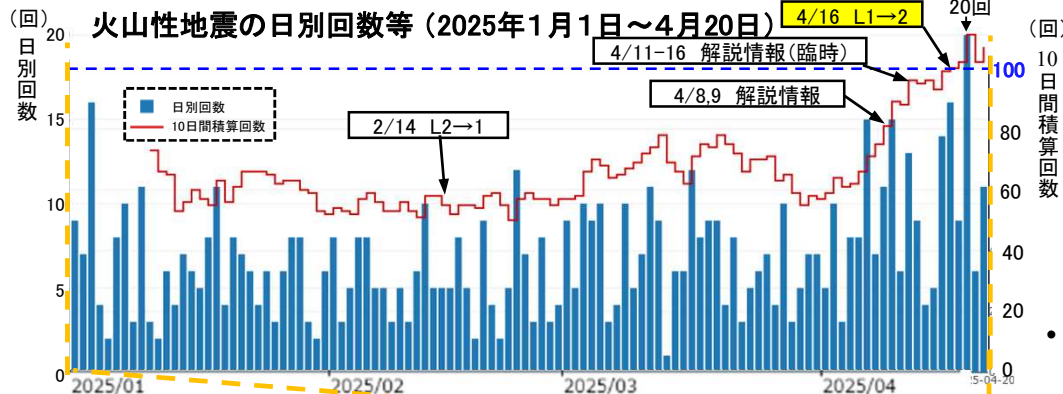
弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。



- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

口永良部島

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)



火山活動経過図(2023年4月1日~2025年4月20日)

4/8,9 : 火山の状況に関する解説情報発表

4/11-16 : 火山の状況に関する解説情報(臨時)発表

4/16 : 噴火警戒レベル1→2(火口周辺規制)

新岳及び古岳の火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生する可能性あり。

- 主に古岳火口付近の浅いところを震源とする火山性地震が増加。火山性地震は、4月7日から16日までの10日間で100回発生。
- その他の観測データには、特段の変化はみられていない。
 - 火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、1日あたり100トンを下回る少ない状態。
 - GNSS連続観測では、2023年11月以降、山体の膨張を示す変動は認められない。
 - 4月11日(気象庁機動調査班(JMA-MOT))及び16日から18日にかけて山麓及び海上から実施した現地調査では、いずれも新岳及び古岳付近の地熱域の状況に特段の変化は認められなかった。



GNSS連続観測点と基線

GNSS基線長図(左下図)の基線を赤線で示す。



口永良部島

口永良部島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

新岳火口及び古岳火口から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、西側は新岳火口から概ね2 kmの範囲では、火砕流に警戒してください。



- ・ 風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・ 地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

レベル2の警戒が必要な範囲
火口から概ね1 km以内（西側は新岳火口から概ね2 km以内）

以下、参考資料 (火山の活動状況、用語集など)

霧島山(新燃岳) 活動状況1

噴火警戒レベル3(入山規制)

＜2025年3月から4月20日までの状況＞

(4月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

- ・ 新燃岳火口では、噴煙は最高で火口縁上400mまで上昇。
- ・ 新燃岳火口西側斜面の割れ目では、噴気は観測されなかった。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

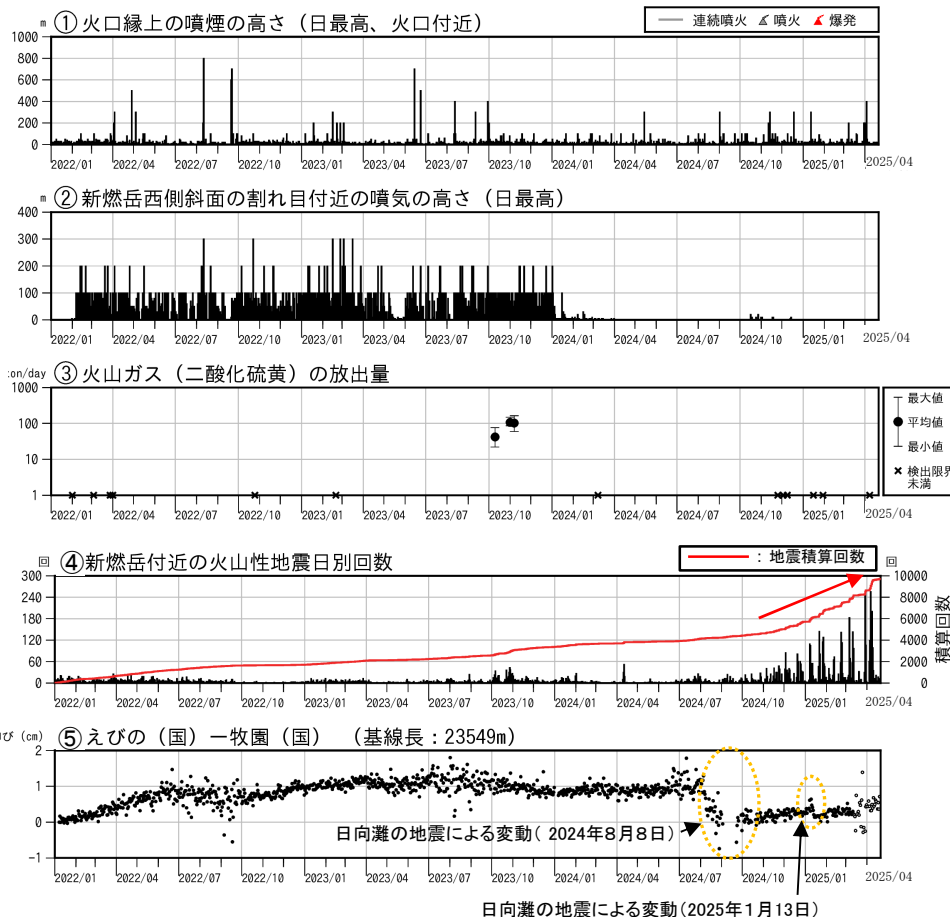
- ・ 4月8日に実施した現地調査では、検出限界未滿。

火山性地震の状況

- ・ 2024年10月下旬頃から火口直下を震源とする火山性地震が増減を繰り返し、多い状態で経過(④赤矢印)。3月の月回数は1,092回で、前月(2月:699回)と比較して増加。

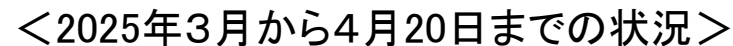
GNSS連続観測(広域)の状況

- ・ 霧島山深部の膨張を示す変化は認められない。



霧島山(新燃岳) 火山活動経過図

(2022年1月～2025年4月20日)



- 2024年11月頃から霧島山を挟む一部の基線で新燃岳付近の地下の膨張を示すと考えられるわずかな伸びが認められる(赤矢印)。

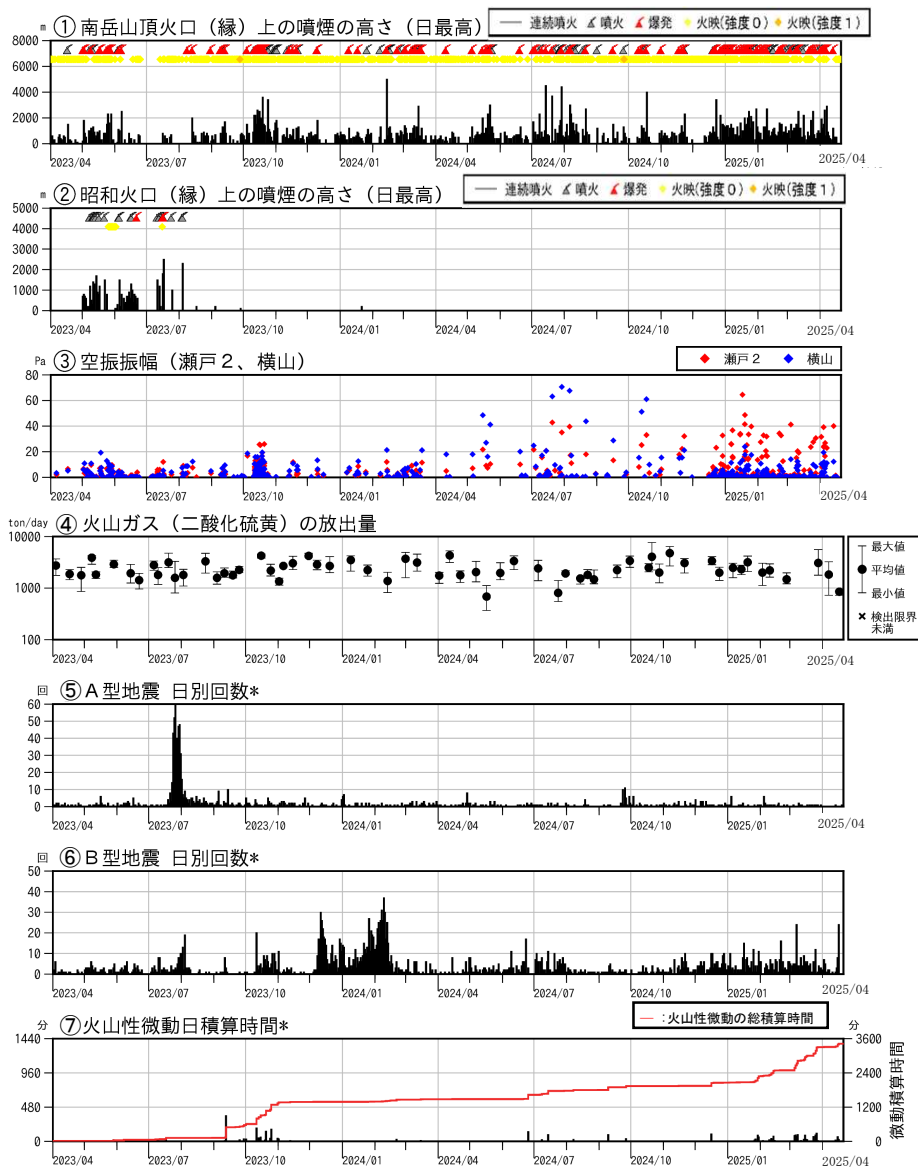


霧島山(新燃岳) GNSS連続観測点と基線番号

←霧島山(新燃岳) GNSS連続観測による基線長変化
れる。(2017年1月～2025年4月20日)

- ・基線の空白部分は欠測を示す。
- ・緑色の破線内の変化は、新床観測点周囲の環境の変化に伴う影響と考えられる。
- ・水色の破線内の変化は、新床観測点のセンサー台交換による局所的な変動による影響と考えられる。
- ・橙色の破線内の変化は、2024年8月8日の日向灘の地震による変動。

桜島 活動状況 噴火警戒レベル3(入山規制)



＜2025年3月から4月20日までの状況＞
（4月の回数等は速報値）

噴煙等の状況

- ・南岳山頂火口では、噴火が44回（3月：25回、4月：19回）発生。このうち爆発は20回（3月：8回、4月：12回）。噴煙は最高で火口縁上2,900mまで上昇。夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。
- ・昭和火口では、噴火及び爆発の発生はなし。火映の観測はなし。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- ・1日あたりの放出量は900～3,100トン。
- ・概ね多い状態で経過。

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過。地震回数は227回（3月：158回、4月：69回）。
- ・火山性微動は主に噴火に伴い発生。

←桜島 火山活動経過図
（2023年4月～2025年4月20日）

▲桜島

桜島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル3(入山規制)

警戒事項

南岳山頂火口及び昭和火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。



昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2km

- ・風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。
- ・爆発に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。
- ・降雨時には土石流に注意してください。

薩摩硫黄島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜ 2025年3月から4月20日までの状況＞
(4月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

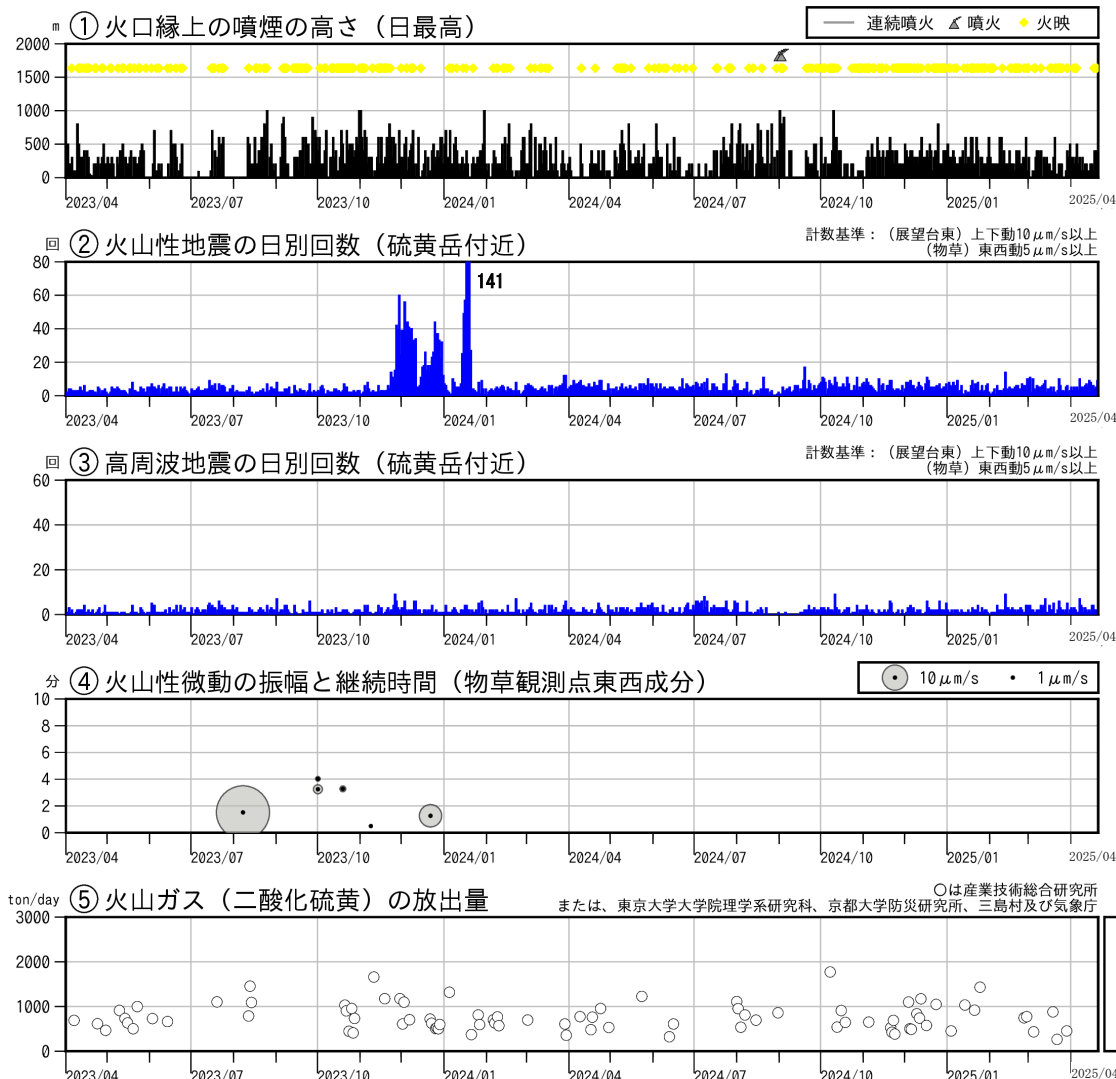
- ・白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上昇。
- ・硫黄岳火口で、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山性地震等の状況

- ・火山性地震は少ない状態で経過(3月: 144回、4月: 112回)。このうち、高周波地震の月回数は3月73回、4月50回。
- ・火山性微動は観測されていない。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- ・1日あたり300～900トンで経過。
- ・長期的には1日あたり1,000トン前後の状況が継続。



薩摩硫黄島 火山活動経過図(2023年4月～2025年4月20日)

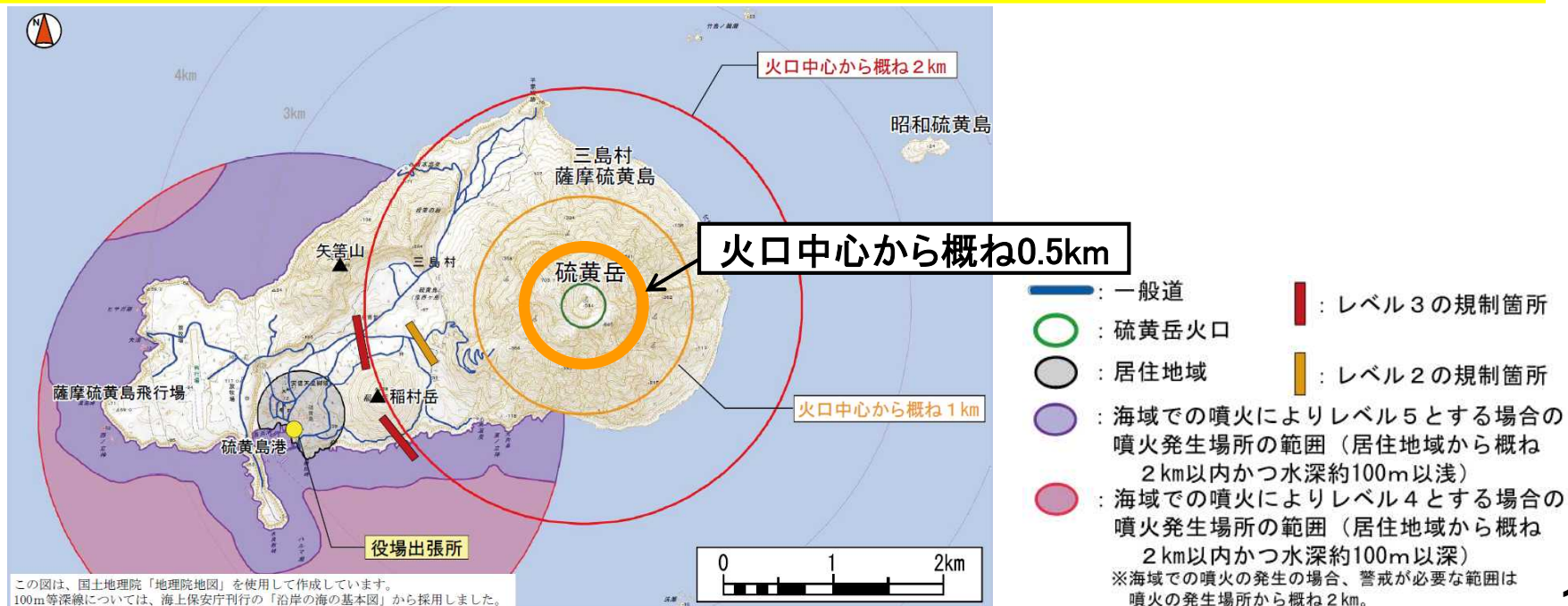
薩摩硫黄島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

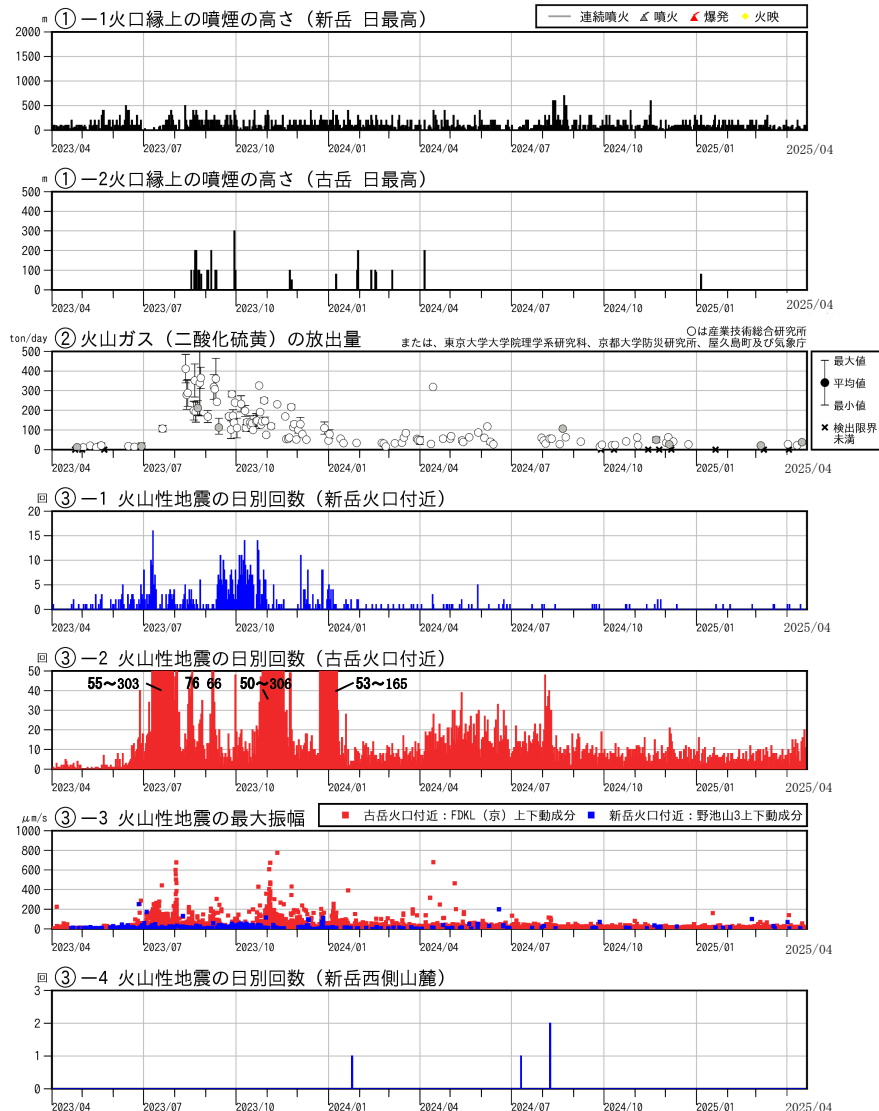
警戒事項

硫黄岳火口中心から概ね0.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。また、火山ガスに注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



口永良部島 活動状況



噴火警戒レベル2（火口周辺規制）

＜2025年3月から4月20日までの状況＞

（4月の回数等は速報値）

噴煙の状況

- 新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上300 mまで上昇。
- 古岳火口では、監視カメラで火口縁を越える噴煙は観測されなかった。山麓からの現地調査において火口縁をわずかに越える白色の噴煙を観測。

火山ガス（二酸化硫黄）の状況

- 1日あたり20～40トンと少ない状態で、検出限界を下回る日もみられた。2024年8月以降は概ね少ない状態。

火山性地震の状況

- 古岳火口付近で火山性地震が増加しており、山体の浅いところで地震活動が活発化。新岳火口付近においても時折、火山性地震が発生。火山性地震の回数は、4月16日以降、10日間に100回以上。振幅の大きな地震はなし。
- 新岳西側山麓付近の地震は、観測なし。

表 地震回数(単位:回)

	1月	2月	3月	4月 (～20日)
古岳火口付近	191	154	210	192
新岳火口付近	2	2	2	3

口永良部島 火山活動経過図(2023年4月～2025年4月20日)

②火山ガス(二酸化硫黄)の放出量については、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が観測を実施。

諏訪之瀬島 活動状況

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

＜2025年3月から4月20日までの状況＞

(4月の回数等は速報値)

噴煙等の状況

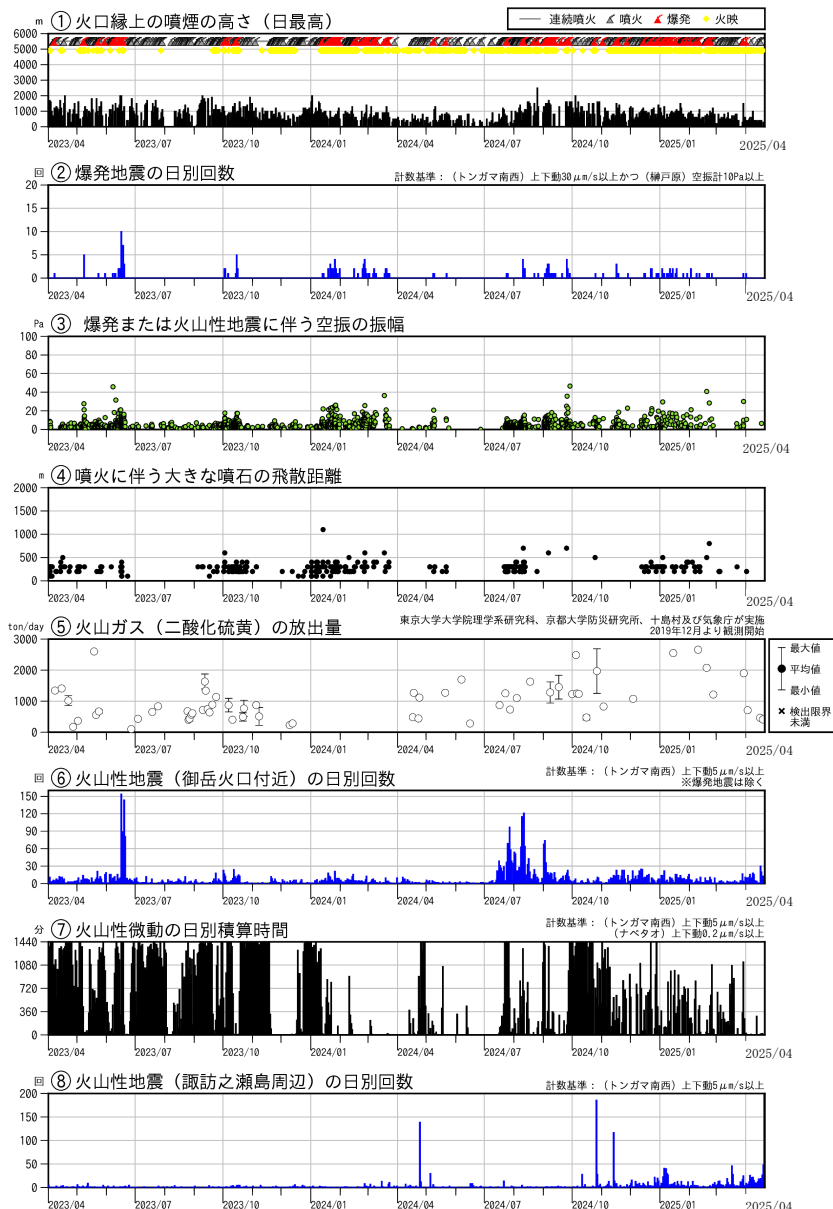
- 噴火に伴う噴煙は、最高で火口縁上1,500mまで上昇。
- 爆発回数は2回(3月:1回、4月:1回)。
- 弾道を描いて飛散する大きな噴石は、火口中心から最大で約300mまで飛散。
- 御岳火口では、夜間に高感度の監視カメラで火映を観測。

火山ガス(二酸化硫黄)の状況

- 1日あたり 400～1,900トン。

火山性地震等の状況

- 諏訪之瀬島の西側で発生していると推定される火山性地震は少ない状態(3月276回、4月520回)。
- 御岳火口付近の火山性地震(爆発地震を除く)は少ない状態(3月86回、4月190回)。
- 火山性微動は主に噴火に伴い発生。



←諏訪之瀬島 火山活動経過図

(2023年4月～2025年4月20日)

諏訪之瀬島 防災上の警戒事項等

噴火警戒レベル2(火口周辺規制)

警戒事項

御岳火口中心から概ね1.5kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

- ・風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。
- ・地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。



- : 一般道
- : 登山道
- : 御岳火口
- : 居住地域
- : レベル3の規制箇所
- : レベル2の規制箇所

この図は、国土地理院「地理院地図」を使用して作成しています。

用語集

- **噴石**：気象庁では、噴火によって火口から吹き飛ばされる防災上警戒・注意すべき大きさの岩石を噴石と呼んでいる。火山に関する情報では、防災上の観点から、「大きな噴石」および「小さな噴石」に区分して使用する。
 - ・大きな噴石：概ね20～30cm以上の、風の影響をほとんど受けずに弾道を描いて飛散する噴石のこと。
 - ・小さな噴石：直径数cm程度の、風の影響を受けて遠方まで流されて降る噴石のこと。
- **火砕流**：噴火により放出された破片状の固体物質と火山ガス等が混合状態で、地表に沿って流れる現象のこと。火砕流の速度は時速百km以上、温度は数百℃に達することもあり、破壊力が大きく、重要な災害要因となりえる。
- **空振**：噴火などによって周囲の空気が振動して衝撃波となって大気中に伝播する現象のこと。空振が通過する際に建物の窓や壁を揺らし、時には窓ガラスが破損することもある。火口から離れるに従って減速し音波となるが、瞬間的な低周波音であるため人間の耳で直接聞くことは難しい。
- **火山性地震**：火山体またはその周辺で発生する地震のこと。マグマの動きや熱水の活動等に関連して発生するものや、噴火に伴うものもある。火山によっては火山活動が活発化すると多く発生する傾向がある。
- **火山性微動**：火山体またはその周辺で発生する火山性地震よりも継続時間の長いもの。地下のマグマや火山ガス、熱水などの流体の移動や振動が原因と考えられるものや、微小な地震が続けて発生したことによると考えられるものがある。火山活動が活発化した時や火山が噴火した際に多く観測される。
- **火映**：高温の溶岩や火山ガス等が火口内や火道上部にある場合に、火口上の雲や噴煙が明るく照らされる現象のこと。一般には夜間に観察される。
- **赤熱**：高温の溶岩や噴気孔が赤く見える状態、あるいは現象のこと。
- **GNSS連続観測**：GNSS(全球測位衛星システム: Global Navigation Satellite Systems)の受信機を用いて連続的に地表の動き(地殻変動)を測定する観測。火山内部のマグマの動きを推定するために利用される。
- **爆発**：噴火の一形式。桜島や霧島山など、「爆発」の用語が地元で定着している場合には、爆発地震の有無、空振の大きさ、大きな噴石の飛散距離などの条件を満たす噴火について、「爆発」を使用することがある。

✓ 気象庁が噴火警報等で用いる用語集はこちらからも確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

噴火警戒レベルの判定基準リンク集

(主に警報発表火山のみ)

■ 霧島山(新燃岳)

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/551_level_kijunn.pdf

■ 桜島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/506_level_kijunn.pdf

■ 薩摩硫黄島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/508_level_kijunn.pdf

■ 口永良部島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/509_level_kijunn.pdf

■ 諏訪之瀬島

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/511_level_kijunn.pdf

✓ こちらで全国の噴火警戒レベルの判定基準とその解説が確認できます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/level_kijunn/keikailevelkijunn.html